



国民の森林・国有林

熊本県「芦北地区特定民有林直轄治山施設 災害復旧等事業」の実施に向けて



要請書を受け取る小島局長

今年7月、梅雨に伴う大雨の影響により九州各地で自然災害が発生し、特に甚大な被害となった熊本県では林地荒廃等の被害額が322億円(全国被害額586億円の過半)に上ったところである。

今回の豪雨は広範囲に及んだため、被害調査に当たっては、九州全県(沖縄本島や離島を除く)を対象にヘリコプターによる調査を行い、様々な視点から情報を得るため搭乗者は局、署職員のほか学識経験者や県職員も含め実施されました。

令和2年7月豪雨については、「令和2年7月豪雨による災害についての非常災害の指定に関する政令」に指定されたことを受け、8月25日、熊本県知事から民有林内の治山施設や林地の復旧に係る事業について、農林水産大臣に対し国の直轄代行を要請されました。

これを受け、9月1日に九州局は要請のとおり民有林内の36箇所について特定民有林

最後に、災害調査等に当たられた皆様へ紙面をお借りしてお礼申し上げると共に、引き続き、ご対応いただきますようお願い申し上げます。

※事業内容 熊本県1市2町(水俣市、芦北町、津奈木町)林地等崩壊地の復旧(関連災)28箇所 治山施設等の復旧8箇所

(担当 川治山課)



熊本県からの説明を受ける局長と関係職員

直轄治山施設災害復旧等事業を実施することとし、県に対し回答したところです。

今後は、芦北地域振興局内に「芦北地区特定民有林直轄治山対策室」を設置し、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、計画的な事業実施に取り組んでいきます。

森林浴でウォーキングとドローンによるバーチャル体験

【宮崎南部森林管理署】桜ヶ丘小学校放課後児童クラブ主催によるオヒスギミステリーサークル森林浴ウォーキング体験が8月17日に開催されました。

参加者は小学1年生から4年生までの22名と先生及び保護者・北郷森林ガイドいっつの木(ガイド・指導員・ボランティア)・ドローン飛行説明者・当署職員6名の併せて45名が参加しました。

猛暑の中ではありませんでしたが、子供たちは、林分密度試験林入口下の駐車場から林分密度試験林入口駐車場まで、ガイドさん達から、植物の名前等



林分密度試験林の説明をする寺田指導官



ドローンによるバーチャル体験の様子

の説明を聞きつつ、木陰の林道を森林浴をしながら移動、駐車場に設置されている看板を見ながら、当署の寺田森林技術指導官から林分密度試験林の説明を聞いた後、ミニテリサークルの中心地までウォーキングを行いました。

その後、林道まで下山し、ドローンインストラクターの水口氏からドローンによるバーチャル体験（VR体験）も開催され、子供たちは上空から見る大きな二つのミステリーサークルに歓声を上げていました。

この催しは、NHKほか報道関係者も取材に來られ、夕方のニュース番組等で紹介されました。

針葉樹林人工林におけるシカ痕跡の 広域多点調査の勉強会を開催

8月4日、熊本県西原村の吉無田国有林において、局シカ被害対策PT事務局主催の「針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域多点調査」実施に向けての勉強会が、各署等より、担当職員各2名程度、計45名程の参加のもと行われました。

本勉強会の目的は九州におけるシカによる人工林被害状

況についてマップ化することにより、実態を把握し、事業実施に活用するとともに、民有林への波及も視野に入れられています。

午前中は吉無田水源内の日陰に巨大ブルーシートを敷き、青松教室ながら森林総研九州支所の主任研究員の山川博美氏及び九州森林インストラクター会の元会長で当局OBの安樂行雄氏を講師に招き、シカ影響簡易チェックシート



シカの嗜好・忌避植物について話す安樂氏

クシートの記載方法やシカの忌避・嗜好植物について講義が行われました。山川氏からは「業務の“ついで”にとにかくたくさん箇所でのチェックシートを使用した調査を実施してもらい、ビッグデータとしたい。そのために誰でも実施できるようなチェックシートを作成した」とのお話があり、安樂氏からは自ら作成された「シカの被害が分かる図鑑」を示しながら



実習後周囲の植物について質問する職員

すことにより、詳細な調査方法の確認が出来たことや、植物同定能力については、全て覚えるのは難しいことから、調査員の基礎知識としては、図鑑の裏表紙「これらの植物が道沿いに多い場合は深刻です」の8種類及びアオキについては同定する知識は必要などの意見もあり有意義な勉強会となりました。

本調査については、複数年にわたる調査が必要であり今年度は令和2年11月まで各署等の職員にて実施され、また、調査データの精度の向上を図ることが必要なことから署等において確実に伝達を行うことにより継続的な調査を実施していくこととしています。

（担当＝技術普及課）



植物同定をする様子

午後からは吉無田国有林1136ろ林小班に場所を移して、午前中の講義を実践する目的で参加者が4班に分かれ、シカの忌避・嗜好植物の同定や、シカ影響簡易チェックシート記入の現地実習を行いました。

最後に各班よりチェックシートの結果と植物同定の結果についての意見交換を行いました。実際に現地で行ったチェックシートに記入することで、調査時における食害の程度や角擦りの状況など様々な疑問点を洗い出

「屋久島森の塾」 を開催

【屋久島森林管理署】平成30年度から屋久島森林生態系保全センター、屋久島町教育委員会と当署の共催で、町内小中学校教職員を対象とした「屋久島森の塾」を行っており、本年度は7月31日に実施しました。

「屋久島森の塾」は、子供たちに直接環境教育等を指導されている教職員の方々に屋

久島の森林・林業に対する理解を深めて頂き、授業での積極的な活用を図るなど森林環境教育の推進を目的として、3年間のカリキュラムを組み実施しています。本年度は町教育委員会のご協力により、小・中学校の15名の教職員の方々に参加を頂き、3年目の取組である屋久島の林業の流れについて実施しました。

当日は晴天の暑い中、安房貯木土場で松井涼太森林整備官補により土埋木について説明を行い、続いて鍋山国宥林110林班において、後藤一



間伐箇所での集材の様子を見学

哉主任森林整備官により森林整備（活用型）の説明を行い、実際に請負事業体による伐倒・集材・玉切作業を見学してもらいました。午後からは一口竜也森林技術指導官により屋久島地杉の苗木生産について説明を行い、次に屋久島地杉加工センターで時寛之事業統括マネージャーから素材の入荷から加工、製材出荷までの説明があり、最後に屋久島の地杉で実際に建てられた屋久島町役場の新庁舎を見学し、屋久島森の塾が終了しました。

参加者から「間伐箇所での



役場新庁舎で説明を受ける様子



福西 江玲奈さん

私の祖父は山が大好きな人で、子どもの頃、祖父とともに山の散策をしました。山には原生林、自然林、人工林などがあることを知りました。

自然林や人工林は長い時間をかけ、人が手入れし、利用することで豊かな自然環境や美しい景色を成しているのだと教えられました。

近年、様々な要因で山が荒

れてしまうニュースを見聞きすることも多くなりました。私のような素人だと解決方法が考えつかず、考えることも苦しくなり、段々と目を向け

関心を持つようになりました。そうした時、一冊の本が目にとまりました。実子はいないけれど、木を植えて手入れして、遠い将来の子孫たちに美

き継いだ森の木々を大切に育て、自分たちも数百年後の子孫たちに残していく覚悟を語る場面に感銘を受けました。世代を超えて行わなければな

山が荒れることで起きる問題はたくさんあります。しかし、山の仕事に携わる人や所有者に森の管理をもっとしてほしいと願うするだけでは、解決は難しいように思います。山に直接関わっていない自分

過去からの贈り物と未来に向けて

ないようになっていきました。しかし、子どもが生まれ、祖父が私にしてくれたように緑の多い場所で遊ばせたい、豊かな自然に触れさせたいと考えるようになり、再び山に

しい山や森を残すことが夢であると語る林業者の話が書かれたものです。また、「森林王国」と呼ばれる地域を特集したTV番組で、林業従事者

らない山仕事には、美しい森や山を育てるロマンがありませんが、簡単にはできないのだと改めて感じました。実際に山や森に携わる方々のご心痛

へ応募しました。森林モニターになり、いただいた資料を読むと面白い話題や楽しくなる記事がたくさんありました。モニターに選んでいただき、本当に良かったです。

（熊本市在住）

実際の伐倒等見れてよかった」
「苗木の生産から製材まで理解できた」等の感想をいただきました。

来年度から森の塾1年目の再スタートとなりますが、先生方に少しでも屋久島の森林・林業を理解してもらい、教育の場で生徒の皆さんに教えていただき、担い手確保に繋がればと考えます。

シカ痕の広域多点調査の勉強会 の講習による伝達会議を実施

【宮崎南部森林管理署】8月4日熊本署管内で実施された針葉樹人工林におけるシカ痕



伝達会議の様子

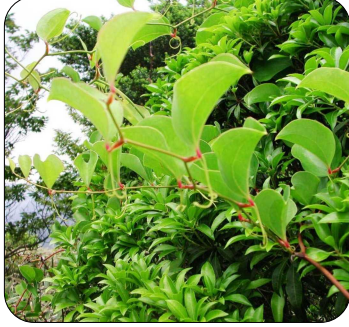
跡の広域多点調査の勉強会に基づき、当署では8月24日開催された出署日に併せて、全森林官等へ勉強会の伝達会議を行いました。

森林官の中には今までにシカが生息していた署に勤務していない森林官もいましたが、ほとんどの森林官・地域技術



鹿児島では「カカランハ」（伊佐市地方）と方言で呼びます。意味はとげがあり触ると痛いから、「触らんほうがいい」との意味です。

むかし、おやつや農作業の合間に食べる団子は、自分の家で作った小麦粉から、当たり前のように蒸し団子を作っており、蒸すときに団子の下に敷いたのがこの葉でした。



官は経験があり、伝達会議をスムーズに実施することが出来ました。

当署ではシカが今までいないとされていましたが、昨年度は自動カメラにシカが撮影されたり、民地では日南市・串間市でシカが捕獲されるなど県・市・署は危機感を持ち、



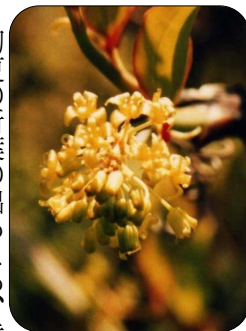
この葉がない時はトウモロコシの葉も使っていました。昔懐かしい話です。

巻きひげが独特の出方で「葉柄の下部両側に延着したひげになっていきます」このような巻き髭の出方は他に例を見ないことから、イントラクションの目玉になっています。



現在、現状把握と被害防止に向けて取り組みを進めているところです。

今回の会議では、局指示による第一次締め切りの9月末に向け、全員で取り組むことを確認し、伝達会議を終了しました。



初夏の新葉の出るころ、黄色の小花が多数散形花序に咲きます。咲き始めの葉や花芽は山菜として利用されおいしいです。

名前の一般的な意味はサルも引っ掛けて捕まるといふ意味の他に「山に捨てられた瘡毒（梅毒）患者がこの根を食べて病気が治り、帰って来た」ことからしてサンキライの名前もあります。

森林インストラクター

安条 行雄



国のリーダーが辞意を表明した、体調不良が原因とのことだが、誰でも長い人生、随所で引き際のタイムラグがあるように思う▼偉大なアスリートや経営の代表者など引き際の美学がある一方、績が霞んでしまうこともある▼老子が挙げた例えとして、非常にわかりやすいのは、鋭く研いだ刃先。最初は切れ味が良く、気持ち良く切れるが、徐々に切れ（キレ）が悪くなるように富と地位はいつまでも続かない、執着せずやり遂げたなら潔く身を引くべき、引き際を見極めよと教えている▼「自分ならまだできる」「自分がいなければだめだ」などと、人は地位や成功に執着してしまいがちなものだが、そう思う時にはすでに絶頂期は過ぎており、組織にとって「目の上のたんこぶ」となっていないかと自己牽制も必要である▼職員採用から30年が経過し第4コーナーを目前としている、これから引き際を意識しながら、先輩へ技術を継承し活躍の場を与え、そして、後輩達の仕事の妨げとならないよう年齢に応じた立ち回りに心がけようと切に思う。

【松】